Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（北陸） 2010年 9 月

大学キャンパスの外部コモンスペースの在り方に関する研究
—滞在行動に着目して—

正会員 ○中山 裕章*
同 加藤 彰一**

大学キャンパス 外部コモンスペース 滞在行動
ウェイファインディング 親水空間 樹木

1．Abstract

The student life in university campus is included in not only the studies in lecture room and laboratory but also the activity in the other campus facilities like outdoor common space.
So, outdoor common space is essential to take a rest for a change of pace, to deepen friends and acquaintances for student.

Therefore, on this study, analyze and compare between outdoor common spaces in Campuses. The purpose of this study is to show composition of outdoor common spaces to stay behavior.

2．はじめに

大学キャンパスでは、機能的に様々な建物が必要とされ、それと同時に、外部空間が生じる。このような外部空間は、建築を設計した後に残された単なる屋外空間として捉えるのではなく、積極的にデザインする対象として考えられるべきである。このように、キャンパスの外部空間はある意味では最もキャンパスらしさが具現化されている場所の一つであるといえる。

また、大学キャンパスにおける学生生活は、講義室や研究室における学業だけではなく、大学での経験を豊かなものにする他のキャンパス施設(主に外部コモンスペース)においてのアクティビティも含まれる。

よって、キャンパスの外部空間は、学生が休息や気分転換をしたり、思索したり、交友関係を深めるには不可欠な場所である。そこで、外部空間の利用方法や振る舞いの原因を明らかにすることを目指し、キャンパスの外部コモンスペースにおける学生のアクティビティについて研究していく必要がある。

そこで、本研究では大学キャンパスの外部空間の分析、比較を行い、滞在行動に適した外部空間の構成を明らかにすることを目的とする。また、コモンスペースの現状を調査することにより、計画に必要な知見を得ることも目的とする。

3．調査方法

調査は、２大学の建築外部空間の分析、比較を行う。また、目視と写真撮影による観察調査によって、大学キャンパスの外部コモンスペースにおいて見られる学生の滞在行動について、場面抽出を行う。本研究では、事例として、三重大学、名古屋商科大学日進キャンパスの２つの大学キャンパスを取り上げ、比較対象とします。

4．事例分析・比較

表 1 大学概要(2009 年 5 月 1 日現在)

大学名	三重大学	名古屋商科大学 日進キャンパス
学校種別	国立	私立
設置	1949年	1953年
所在地	三重県津市栗真町屋町	愛知県日進市米野木町
学部	人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部	経済学部、経営学部、商学部、コミュニケーション学部
総面積	約53万㎡	約60万㎡

■事例１ 三重大学

三重県唯一の国立大学である三重大学は、キャンパス内の建物は学部ごとにいくつかに分類されている。

最寄り駅である近鉄江戸橋駅から徒歩で約 15 分のところにあり、また、広大なキャンパスであるため、自転車利用学生が非常に多く、キャンパス内には無数に自転車が駐輪されている。しかし、駐輪所の整備があまり行われておらず、キャンパス内の景観を乱している。それらの整備をすることがコモンスペースの充実のための第一歩だと考えられる。

また、芝生広場が多く点在するが、手入れが行き届いておらず、芝生に直接腰を下ろす人がいないのが現状である。手入れの行き届いた芝生広場の実現が、コモンスペースの充実につながると考えられる。

また、広大なキャンパスであり、附属病院もあるため、学生以外にも様々な年代の人が訪れるにもかかわらず、案内標識・案内看板などが非常に少なく、ウェイファインディングの観点から見ると、わかりにくさを感じるキャンパスである。

■事例２ 名古屋商科大学 日進キャンパス

広大なキャンパスは起伏に富んだ丘陵に位置し、南になだらかに傾斜したパノラマ的視界が開かれています。キャンパスは自然ゾーン、スポーツゾーン、交歓ゾーン、広場ゾーン、教育ゾーンの５つに大きく分類される。また、キャンパスの外部空間には池があり、高い親水性を

A Study about the Ideal Method of Outdoor Common Space in University Campus
-Pay Attention to People's Stay Behaviors-

NAKAYAMA Hiroaki, KATO Akikazu

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

有しています。このようなキャンパス内の親水空間が学生、教員にとっての憩いの場となっています。また、同じ敷地内に光陵女子短期大学がある。

三重大学のキャンパスと同様に、案内標識・案内看板などがあまり設置されておらず、ウェイファインディングの観点から見ると、わかりにくさを感じるキャンパスである。

■親水空間の滞在者への影響

名古屋商科大学のキャンパスの外部空間には池があり、高い親水性を有しています。(図1、2) このようなキャンパス内の親水空間が学生、教職員にとっての憩いの場となっています。また、図1の池周辺が階段状の形態となっているため、段差を利用しての着座での滞在行動を引き起こさせる。また、ベンチも配置されているため、着座滞在者が増える。

このように、親水空間、段差、ベンチ、加えて樹木などの滞在行動を契機づけるであろう要素がいくつも混在するため、滞在者が非常に多くなると考えられる。

三重大学には親水空間と呼べる空間が無いので、親水空間を整備することで、外部コモンスペースの充実を図ることができると考えられる。

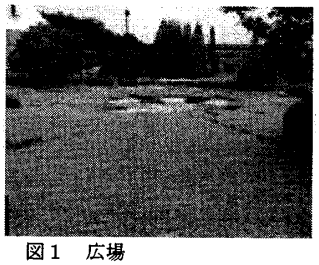

図1　広場

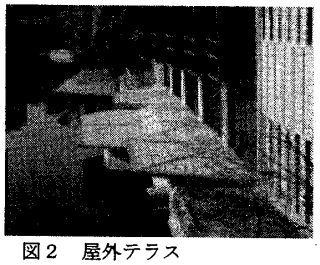

図2　屋外テラス

■樹木の滞在者への影響

三重大学には、中心となるコモンスペースが2つあり、今回、それらのコモンスペースをコモンスペースA、Bと定義する。

コモンスペースAは、近くに食堂があり、また机、ベンチなどが多く配置されており、飲食をしたり、休憩したり、談笑したりする着座滞在者が多く見られた。コモンスペースBも同様に近くに食堂、コンビニエンスストア、講堂があり、配置された机、ベンチを利用しての飲食による着座滞在者が非常に多く見られた。

どちらのコモンスペースにも樹木、植栽などの自然を感じられるものが多く存在するが、4月の観察調査では、後者のコモンスペースには桜の木があり、前者よりもより多くの着座滞在者を見ることができた。

このように桜、紅葉など日本特有の四季を感じられる樹木をコモンスペース周辺に配置することで、より多くの滞在行動が生まれる為、効果的であると考えられる。

図3　三重大学キャンパスマップ

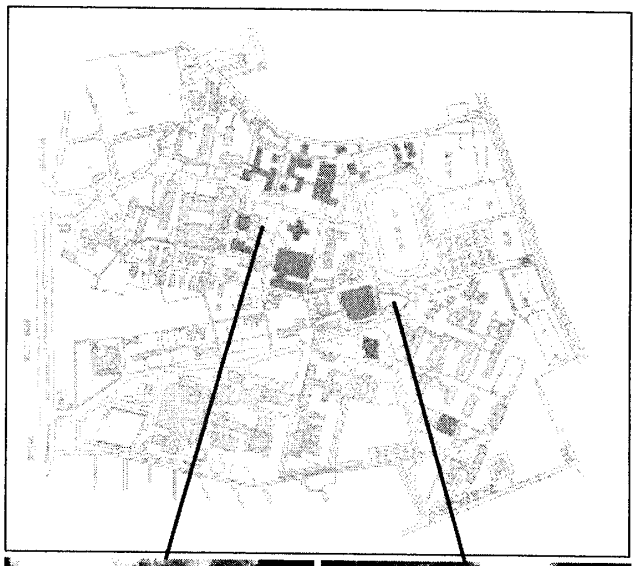

図4　コモンスペースA

図5　コモンスペースB

5．まとめ

本研究では、滞在行動の観点から大学キャンパスの建築外部空間の分析、比較を行なった。その結果、キャンパスの外部空間は、学生が休息や気分転換をしたり、思索したり、交友関係を深めるには不可欠な場所である。このような行為には、ベンチ、階段などの段差、芝生など容易に腰を下ろせる場所が必要である。また、樹木、植栽、芝生など緑を感じさせるもの、池などの水辺、このような自然を感じさせるものの存在は、コモンスペースを快適で、魅力的なものに変え、リラックスできる要因となるため、滞在行動を促すことが分かった。

そして、そのような滞在行動を契機づける要素が1つ2つと増えれば増えるほど、滞在場所として適していることが分かった。

今後は、新しいコモンスペースの在り方の提案を目標に滞在行動やウェイファインディングの観点から、調査・研究を進めたい。

[参考文献]

1）日本建築学会 1993 年度日本建築学会大会（関東）研究懇談会資料　キャンパス外部空間論

2）三重大学 HP　http://www.mie-u.ac.jp/

3）名古屋商科大学 HP　http://www.nucba.ac.jp/

4）Campus Ecologist　www.campusecologist.org/cen/v13n4.htm

*三重大学大学院工学研究科　博士前期課程

**三重大学大学院工学研究科　教授・工博

* Graduate Student, Graduate School of Eng.,Mie Univ.

** Prof., Graduate School of Eng.,Mie Univ.

NII-Electronic Library Service